

第 39 回 横浜市都市美対策審議会 景観審査部会
(仮称) 日吉箕輪町計画

低層部の考え方について

目次

| | |
|---------------------------|----|
| 1. 低層部における共通デザインの考え方 | |
| (1) 立地特性の読み解き | 01 |
| (2) 目標とする空間コンセプト | 01 |
| (3) ランドスケープの考え方 | 02 |
| 2. 綱島街道沿道エリア | |
| (1) ゲート広場及び商業店舗前 | 03 |
| (2) 既存樹の森及びサービス付き高齢者向け住宅前 | 04 |
| 3. 中央広場エリア | 05 |
| 4. 貫通通路・遊歩道エリア | |
| (1) 遊歩道及びウェルネスパーク | 10 |
| (2) 貫通通路及び小学校校門前 | 11 |
| 5. エコ広場・防災広場エリア | 12 |

1. 低層部における共通デザインの考え方

(1) 立地特性の読み解き

○綱島街道沿道

幹線道路沿道に商業施設等の施設が連続して立地することや滞留及び歩行空間を配置することから商業店舗等により**商業的なにぎわいある沿道空間**とすることが求められる。

○サ高住及び既存樹の森

既存樹の森及びサ高住前においては、高齢者やその家族などの**地域住民の憩いの場**としての利用が想定されることから近接する施設の用途にふさわしい**多世代の交流空間**とすることが求められる。

○中央広場

地域住民等により日常的な利用やイベント等の開催が想定されることから**地域の交流拠点としてふさわしい象徴的な空間**であるとともに、**親しみある空間**とすることが求められる。

○遊歩道及び貫通通路

地域住民や学生等の利用が想定されること、住宅と小学校が近接して立地することから住環境及び学習環境の保全をする緩衝帯として**緑豊かな落ち着いた空間**とすることが求められる。また、ウェルネスパークは、遊具、散策路及び休憩スペースを設置することから**日常的な憩いの場となる空間**とすることが求められる。

○エコ・防災広場

市街地との緩衝帯や、小学校に近接した環境学習の場となることから生物生息空間となる**多様な樹種で構成される緑豊かな空間**とすることが求められる。



地区周辺及び地区内の状況



地区内の空間分節のイメージ

(2) 目標とする空間コンセプト

・左記の立地特性を踏まえるとともに、本地区における計画コンセプトである「**環境未来都市にふさわしい持続可能な魅力あるまちづくり**」の実現に向けて都市デザインの観点における「**目標とする空間コンセプト**」を以下のとおり掲げる。

～自然とひとをつなぐまち～

丘陵のみどりに呼応する、自然とともにいきる次世代の豊かな暮らしの風景をつくる

●この場所にしかない個性

- ・都市と自然が交わる環境未来都市
- ・ひととまちと自然をつなげるグリーンインフラ
- ・まちとみどりとひとが交わる魅力的な風景を生む

●この場所ならではの体験

- ・自然に抱かれた先進的な暮らし
- ・時間の経過とともに成熟するまちなみ
- ・みどりに包まれた低層施設によるにぎわい

●この場所らしいコミュニティ

- ・安心して快適、豊かな暮らしを支えるコミュニティ
- ・インフラ多世代交流を促しひとと地域をつなげる多様な施設
- ・街区を超えた地域交流の核となるパブリックスペース

(3) ランドスケープの考え方

～自然とともに生きるまち～

豊かな緑に溢れる自然が地区全体に拡がり、樹木の成長とともに育ち、成熟していく暮らしをつくる

●目標とする風景

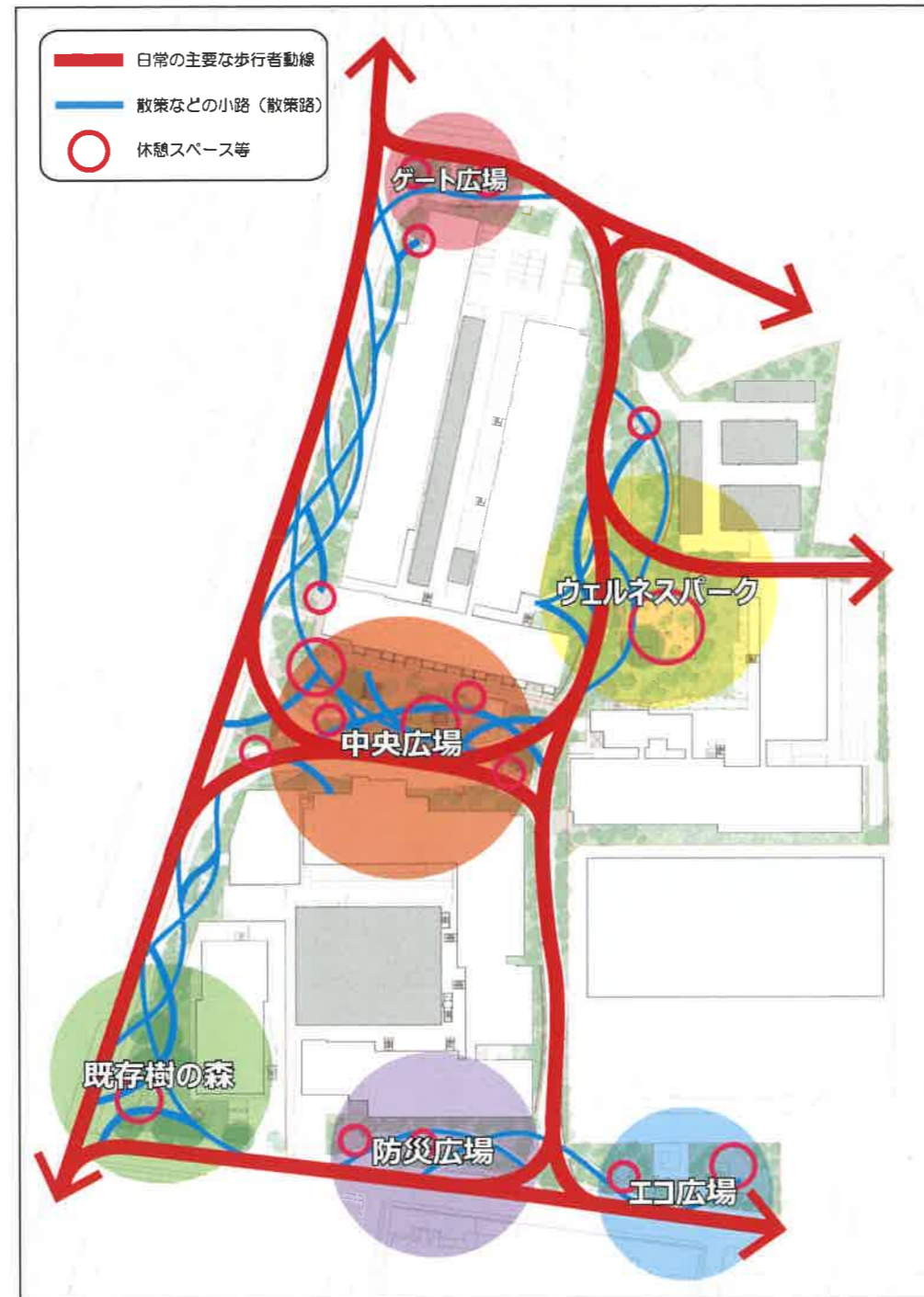
- ・本地区内の足元に広がる緑の中にもうけられた広場が、快適で安全・安心なコミュニティを創出し、地区内外の多様な地域の人々による豊かな風景をつくる

●立地特性に応じた空間属性

- ・店舗等と一体となったにぎわい空間や、緑豊かな広場空間や歩行者空間における穏やかな憩いある風景、また地域の自然を学ぶ環境学習の場となる

●空間構成の考え方

- ・地域に残存する丘陵の緑に倣った多様な樹種による四季の変化に富み、多様な生物が生息する緑地空間を地区全体に形成する
- ・地区内の広場をつなぐ快適に回遊できる日常の主要動線となる歩行者動線を形成するとともに、自然を体験し、憩いの空間となる散策ができる小路の歩行者動線を形成する
- ・さらに広場や小路における緑地空間に滞留空間となる休憩スペースやファニチャーを設けることで、より自然を体験できる空間とするとともに、コミュニティ形成の促進に寄与する空間とする



空間構成のイメージ

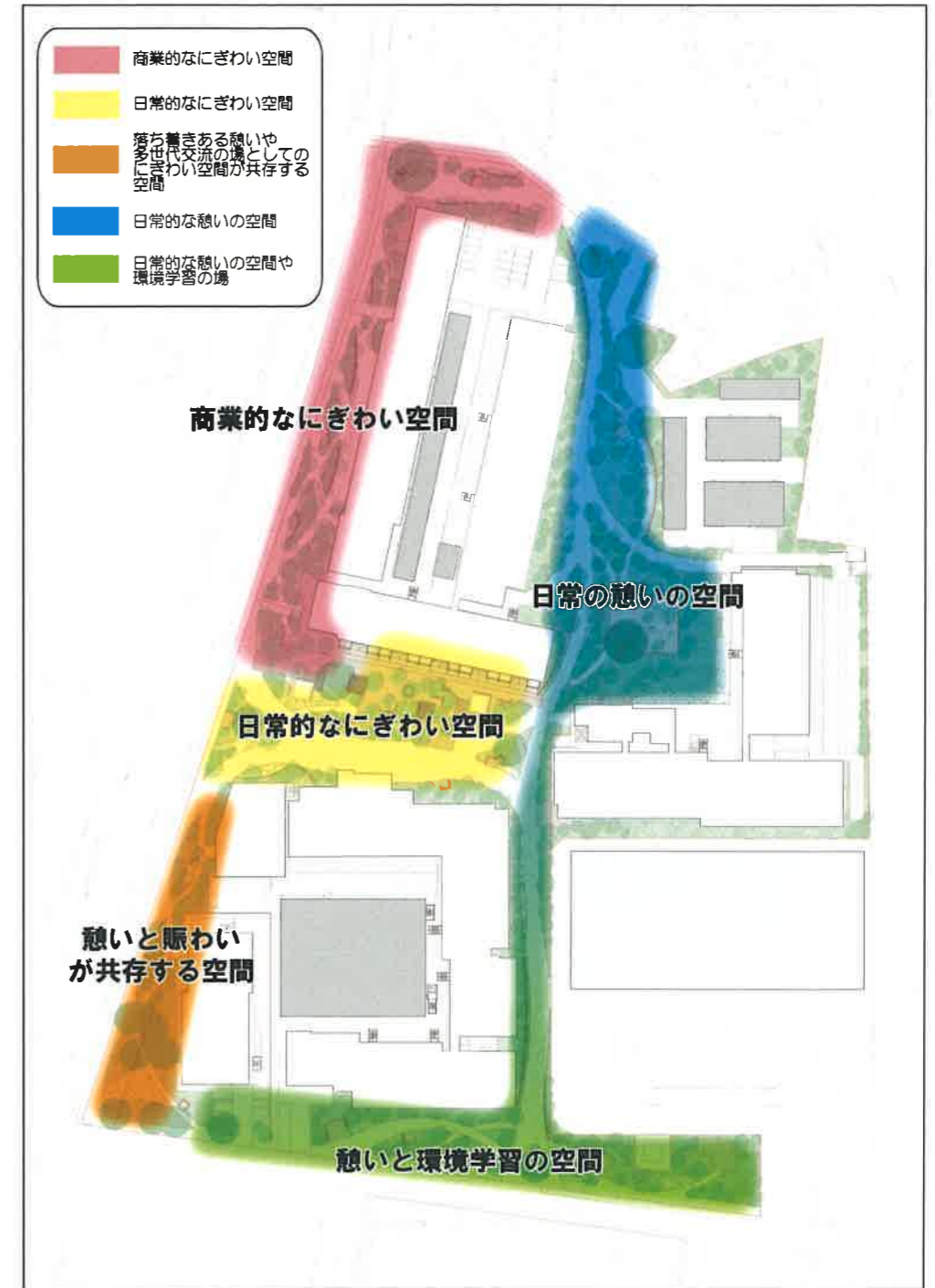
空間のイメージ



主要な歩行者動線



散策路



空間属性のイメージ



休憩スペース



ファニチャー類

2. 網島街道沿道エリア

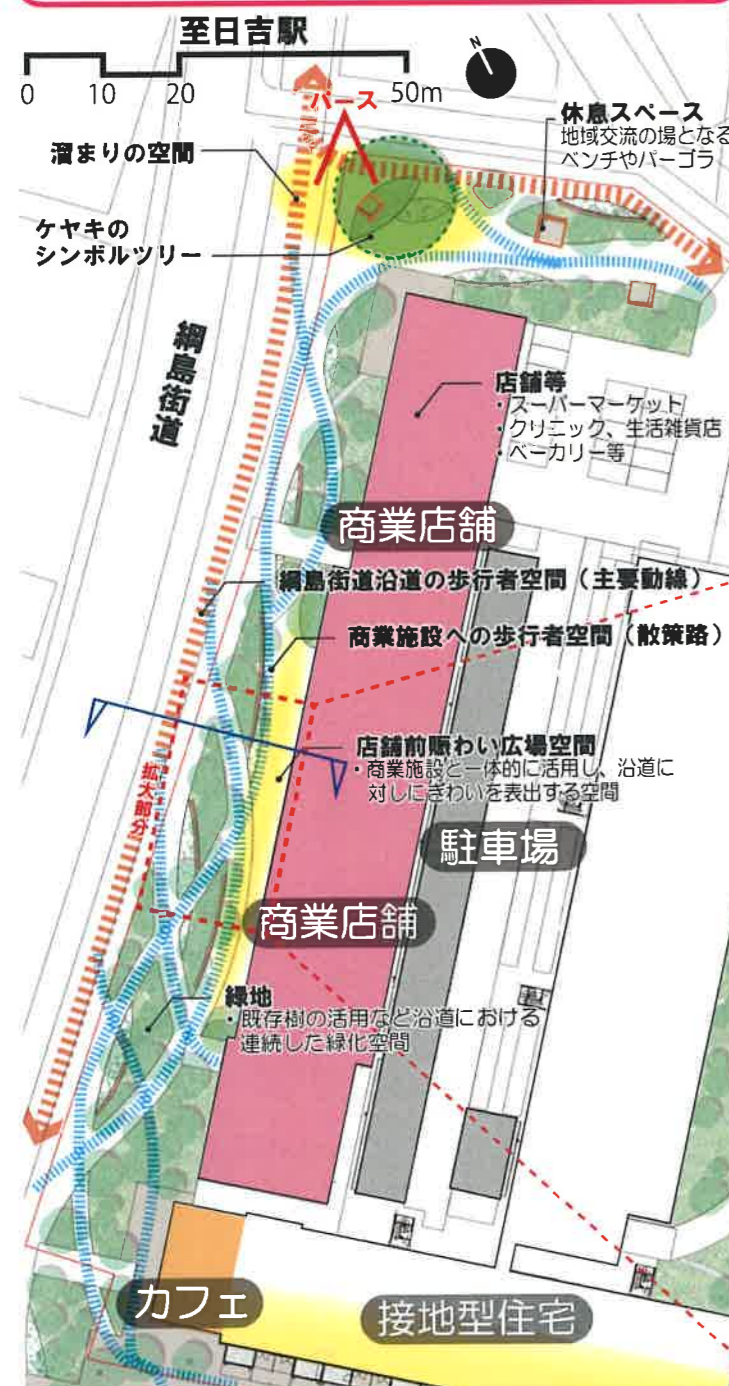
(1) ゲート広場及び商業店舗前

網島街道沿道デザインの考え方

- ・植栽の緑に溶け込むアースカラーのブリックタイルとブロンズカラーのサッシュにより一体的なファサードを構成。また、大きなガラス面を採用することで商業施設等の内部空間のアクティビティが街並みに表出するよう配慮したデザインとする。

日吉駅からの玄関口となる交流空間

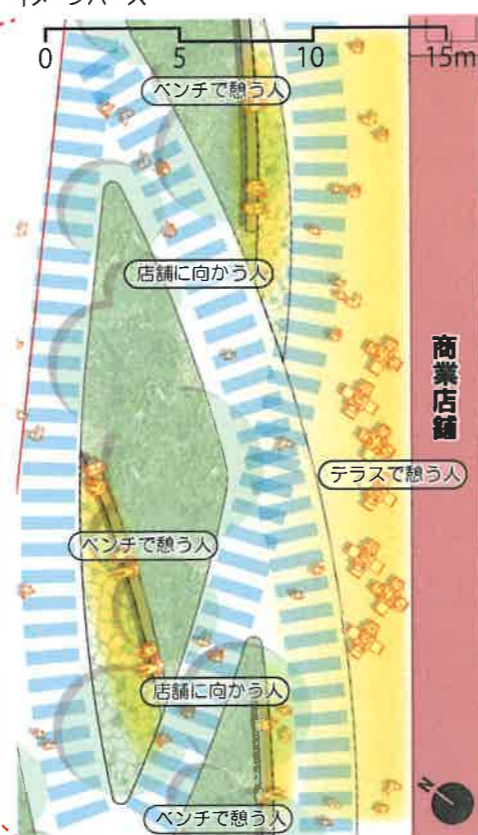
- ・日吉駅を利用する地域住民に対して、街の玄関口となるようなゲート広場を創出します。
- ・ケヤキのシンボル樹による木陰の下に大型店舗と一体的な交流空間を形成し、日常的に地域の人で賑わう広場を創出します。



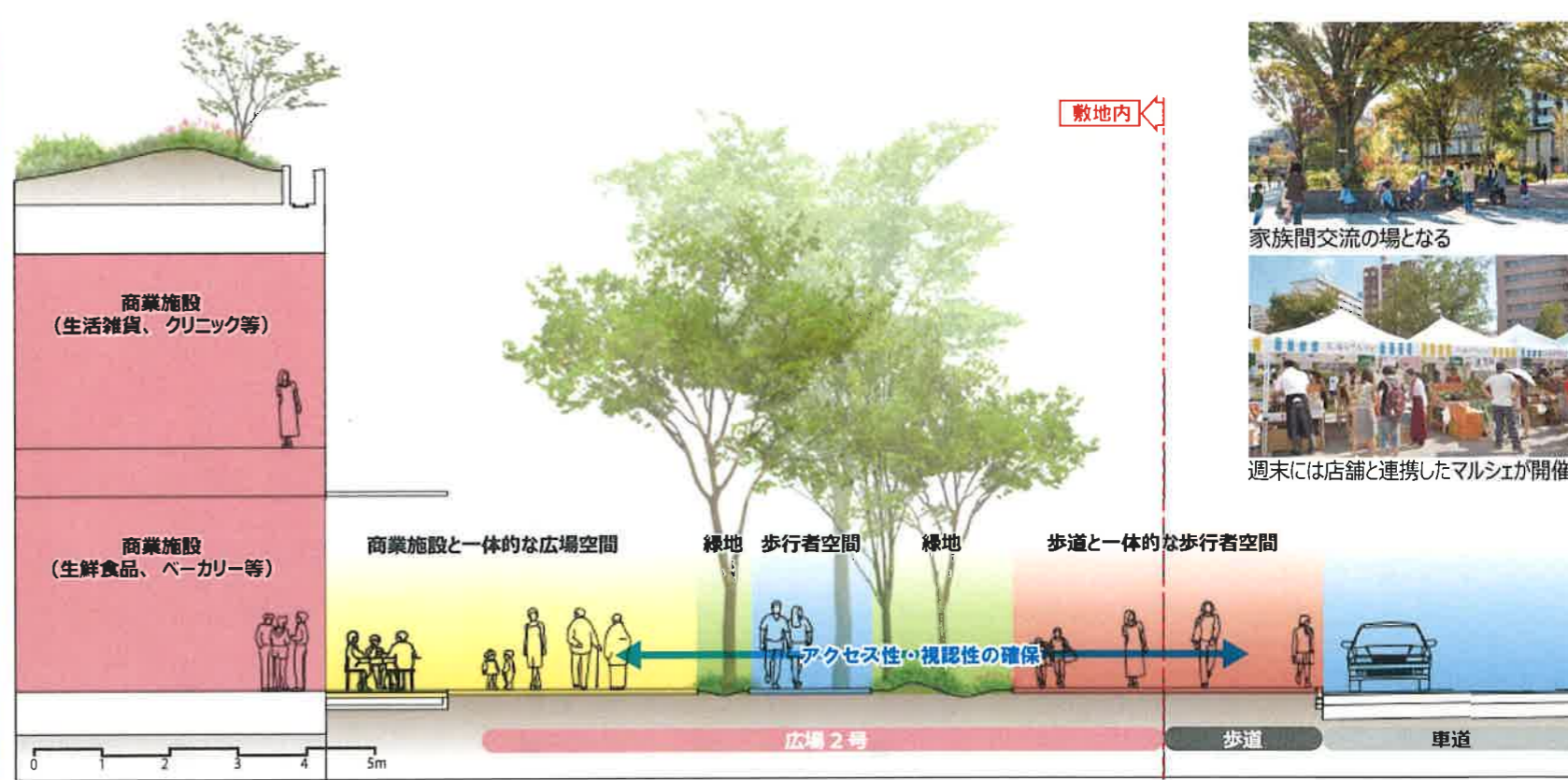
平面構成イメージ



イメージパース



拡大部分



断面構成イメージ

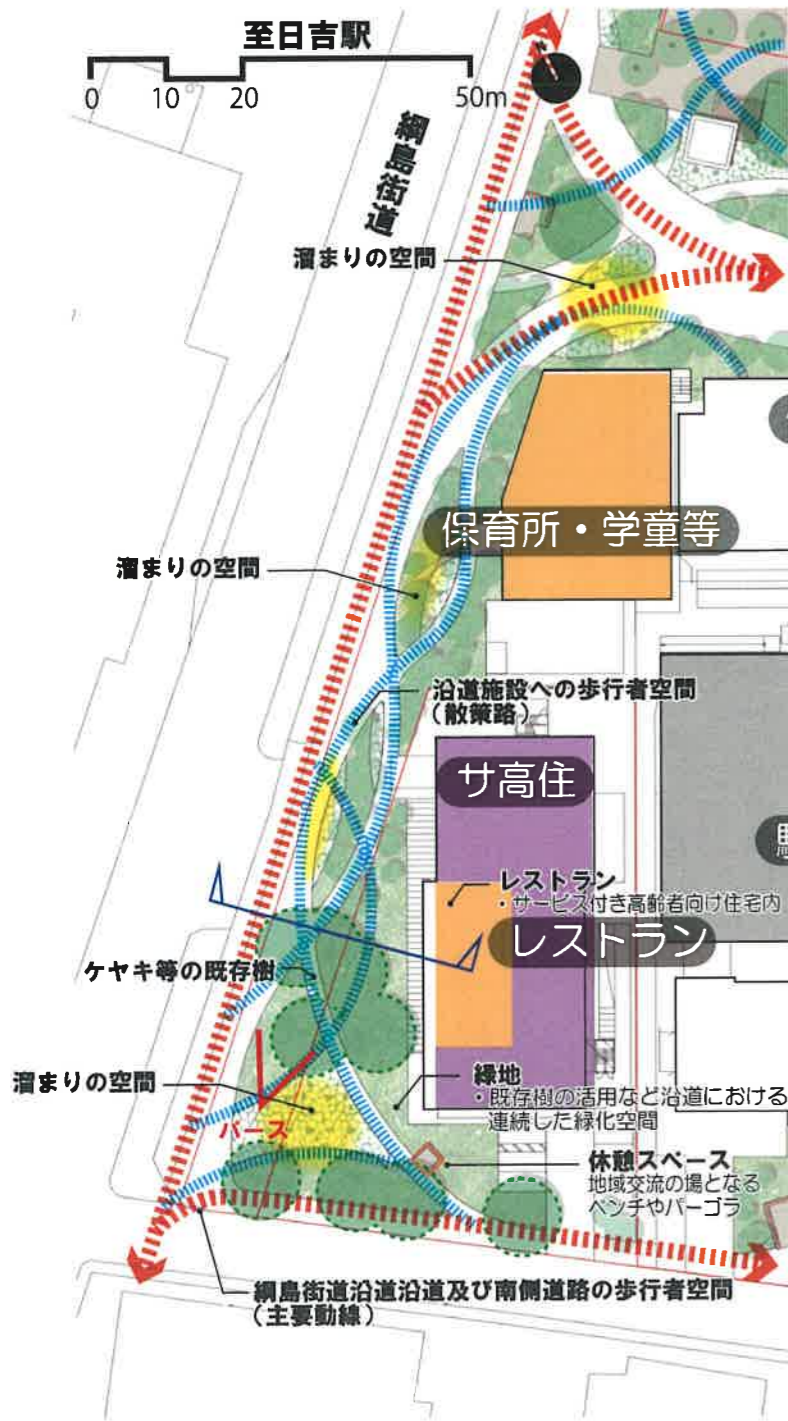


週末には店舗と連携したマルシェが開催

(2) 既存樹の森及び サービス付き高齢者向け住宅前

既存樹を保全した深緑の街角広場

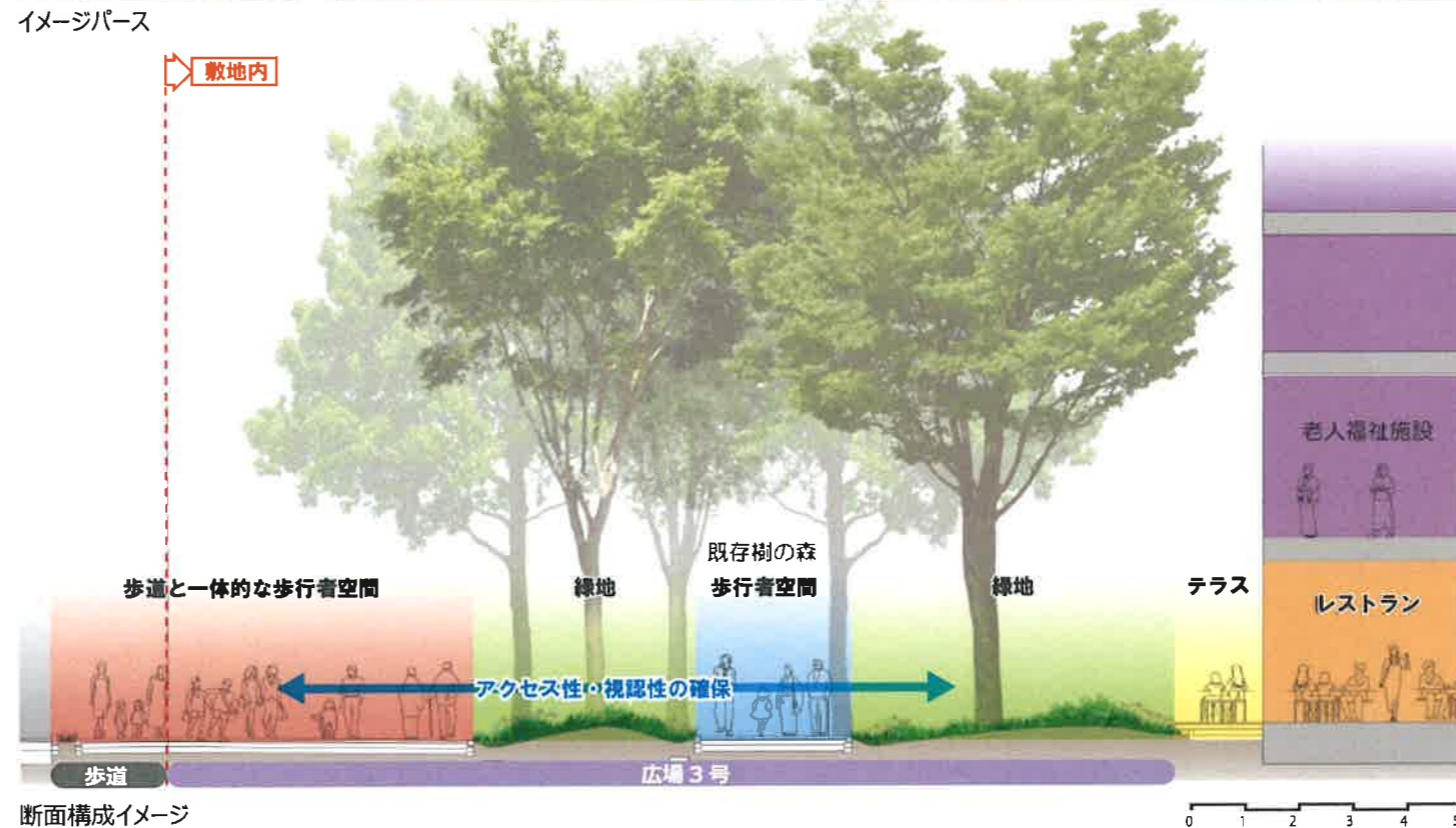
- 既存のスタジイを残置保全し、高齢者福祉施設を利用する高齢者とその家族、地域の家族連れの憩いの場となります。敷地内に設けられる保育園の子ども遊び場にもなり、高齢者と子どもが交流するきっかけとなります。



平面構成イメージ



イメージパース



断面構成イメージ



周辺の森や川と連続した散策空間



高齢者と保育園児による多世代交流

3. 中央広場エリア



地域の賑わいの核となる広場空間

敷地の中心に地域の賑わいの核となる広場を創出します。綱島街道に対して開かれ、多目的な利用が可能な広場と、2つの散策路を結ぶ緑道空間を配置します。地域のイベントや御祭り、災害時には防災活動拠点として機能します。



多目的広場

多用途でにぎわいの核となる多目的広場



広場のイベント活用イメージ

多世代交流

防災活動利用

一時滞在施設と連携し、災害時にも利用可能な広場



防災活動活用イメージ

緑陰の散策エリア

緑陰の散策エリアと街並みを形成する接地型住宅



散策路イメージ

接地型住宅イメージ

子供の遊び場

小学校や学童での活動を補完する憩いと賑わいの広場



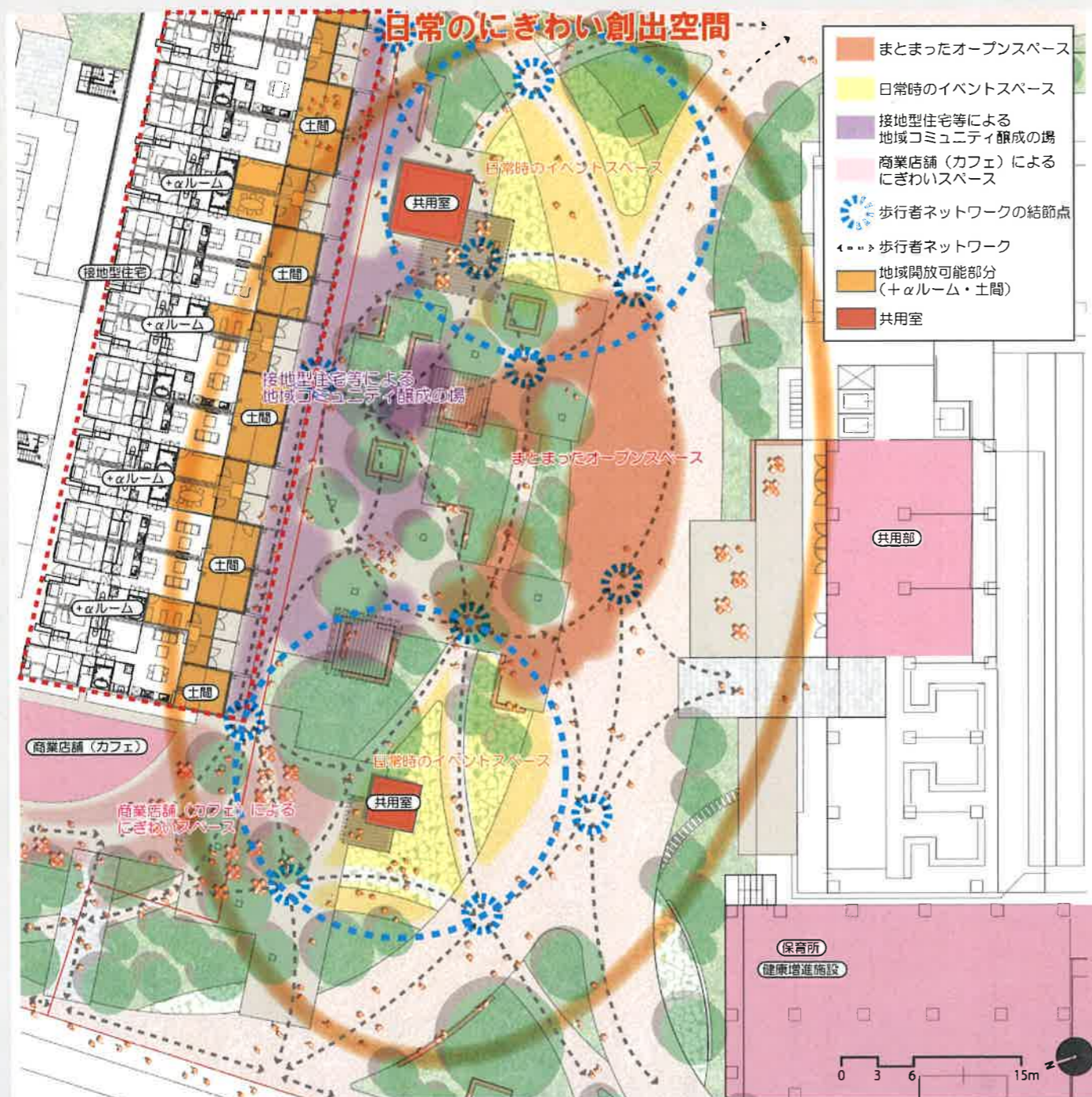
マサラウンジ&キッズルーム

ファブラボ

○空間構成の考え方

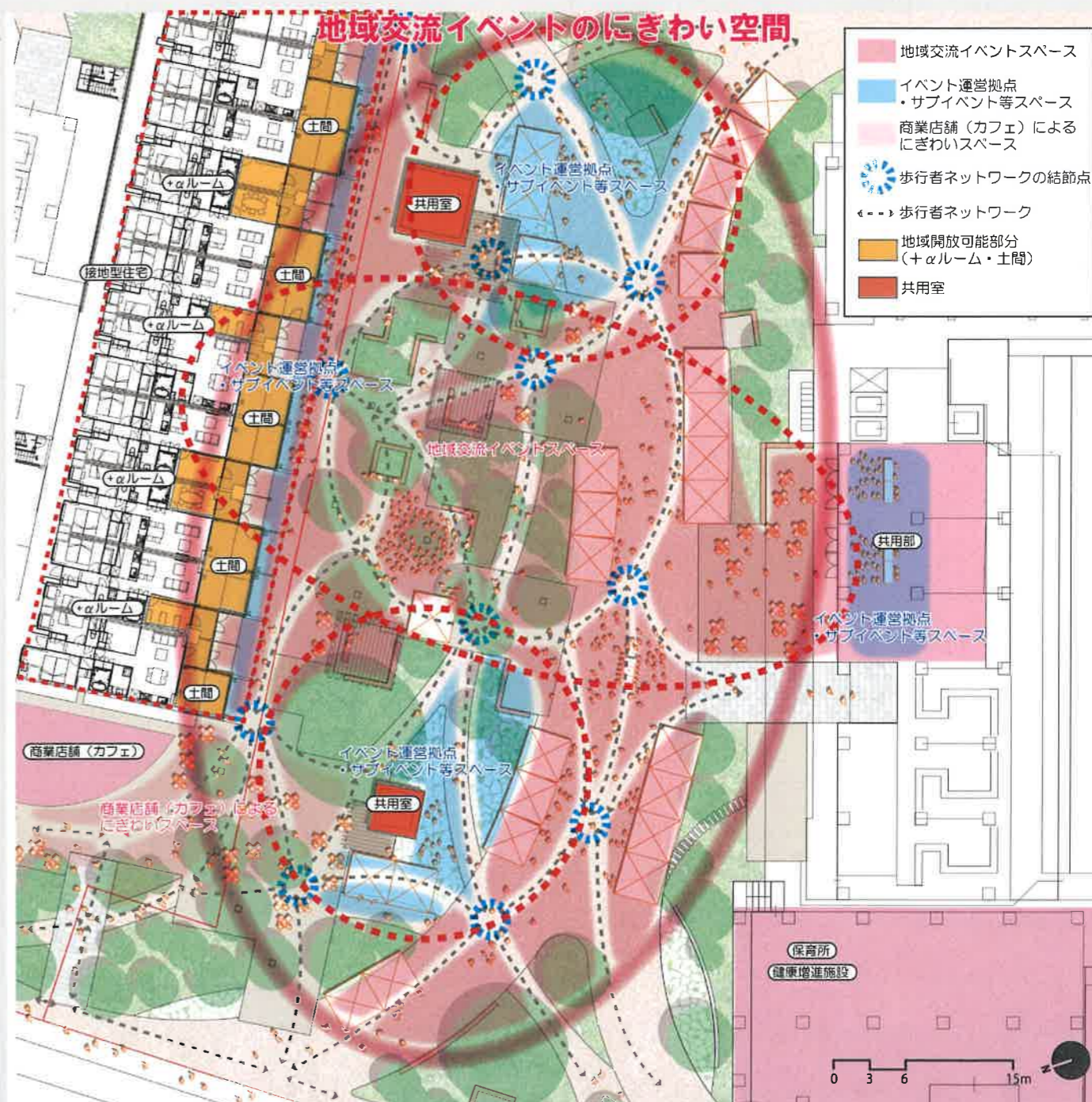
●日常時の空間構成（基本的な空間構成の考え方）

- 地域の交流拠点としてまとまったオープンスペースを設けるとともに、環境未来都市としてふさわしい緑量ある緑豊かな緑陰空間を創出する。なお、樹木の育成環境に配慮し、緑地空間は日照条件のよい広場北側を中心に配置する。さらに、街区を貫通する通行機能を確保する。
- 中央広場は地域の交流拠点とするため、日常時におけるぎわいを創出する。このため、広場に面して設置型住宅、共用室、商業店舗（カフェ）、住宅共用部、地域貢献施設（ママズラウンジ・ファブラボ等）を配置することにより、広場との一体的な活動や活動の表出を誘発する計画とする。
- 接地型住宅や地域貢献施設へ誘引をするため、広場内における回遊性のある歩行者ネットワークを形成するとともに、歩行者ネットワークの結節点を計画的に構築することにより、広場全体に一体性を持たせ、それぞれの施設等により誘発されるアクティビティが連続する計画とする。また、広場内の植栽は下枝の抜けた樹種とすることにより、広場全体の視認性を確保することで、施設内又は屋外に表出したアクティビティが広場利用者等に認識しやすい計画とする。
- さらに、広場内にまちの掲示板等を設置し、接地型住宅や地域貢献施設でのイベント等の情報を発信する。また、環境学習の一環として、環境サインを設置し、小学生等の興味や好奇心を喚起する計画とする。



●イベント時の空間構成

- 中央広場全体が地域交流の拠点としてイベントの会場となる計画とする。
- イベント（お祭り・防災イベント・フリーマーケット等）のメイン会場は、大規模な人の収容を実現すること、テント設置や移動式店舗等の車両乗り入れが可能なることからまとまったオープンスペースを活用する。
- また、広場の出入口に位置する共用室をイベントの運営拠点やサブ会場とすることで、広場外からの人の誘引に寄与するとともに、共用室は屋内空間として高齢者や子供等の休息の場とする計画とする。
- さらにイベント時においては、接地型住宅の一部（+αルーム・土間）と住宅共用部を開放することにより、広場中央部に建物低層部と一体となるまとまったイベント空間を創出する。
- 接地型住宅は、庇を活用した縁側空間として休息スペースとすることや日常時における住民等のアクティビティの表出の場として活用することを検討する。
- 住宅共用部においては、半屋外空間としてメイン会場と一体的な空間として、イベントの運営拠点や休息スペース等として活用することを検討する。



○賑わい創出の考え方

接地型住宅

○目的

- 広場に面して門扉・門柱や専用庭を配置し、ライフスタイルに合わせて自由に活用できる住宅とすることで、人の暮らしと調和した落ち着いた感じのある街並みを形成する。
- また、暮らしのアクティビティが広場に表出する接地型住戸とする。

○デザインコンセプト

- 中間領域に縁側のような底下の憩いの場をつくりだす水平庇のデザイン
- 中央広場に対し、視認性の高いパーゴラ庇のデザイン
- 屋外土間と中間領域・中央広場をつなぐ、可変型オープンフェンスによる開放性の高いデザイン（イベント時など広場に面して全開放可能）
- 街並みに木の温もりを感じさせる広場のデザイン



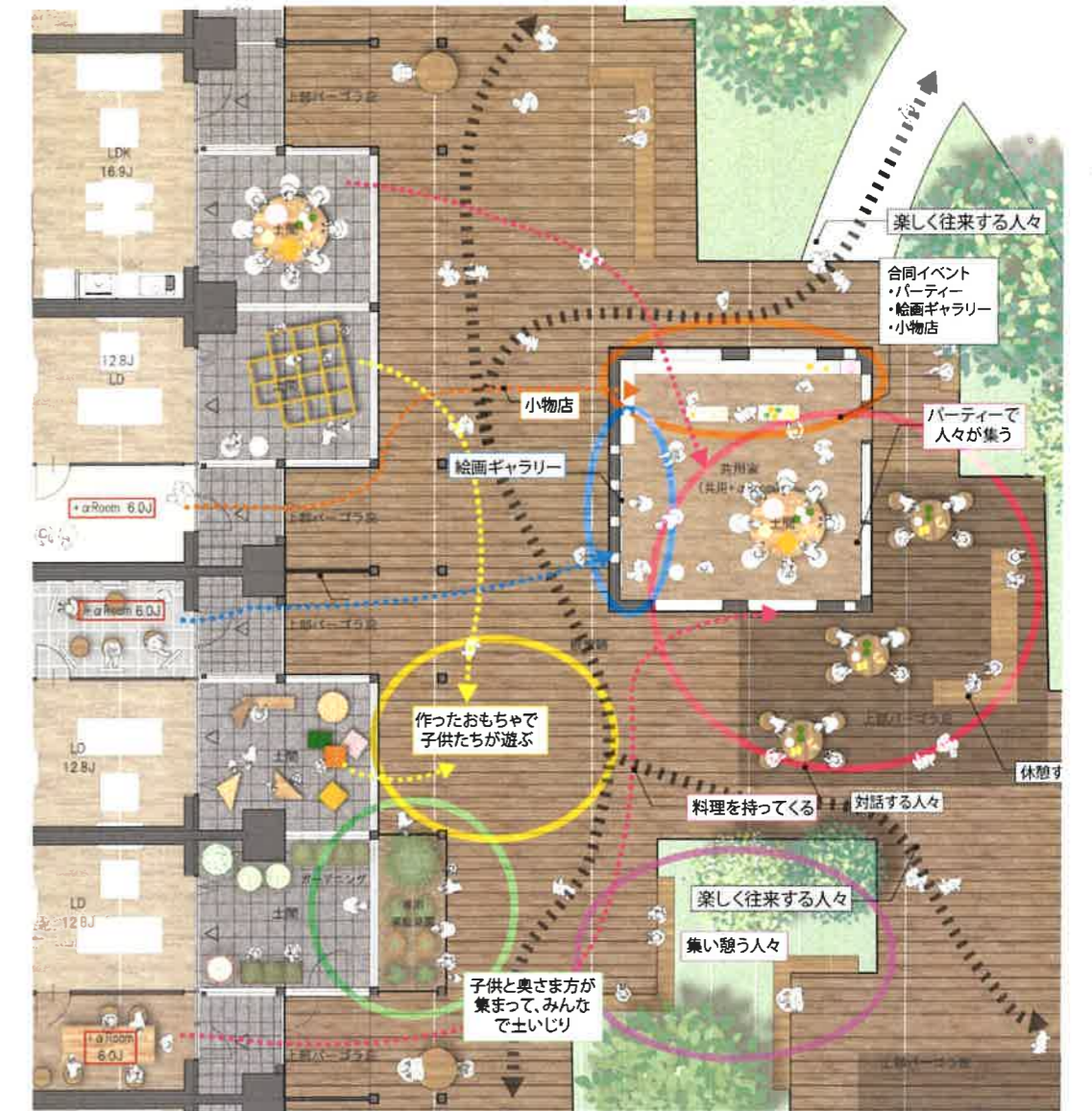
イメージパース

+αルーム

- 街並みを形成する要素の一つとして、一般家庭が住まう居室の他に、小売店、習い事教室、個人ギャラリーやアトリエ等思い通りの使い方に対応可能なスペースである。
- 周辺居住者等の地域の人々が出会い街区内に賑わいを創出するきっかけを生み出す場となる。

共用室

- 地区内外の住民等が利用出来き、さらなる地域コミュニティの醸成に寄与する地域交流の場となる共用スペースである。
- 利用イメージとしては、接地型住宅に住まう居住同士や地域住民により各々の活動の成果を持ち寄る場や交流の場として機能することを想定する。



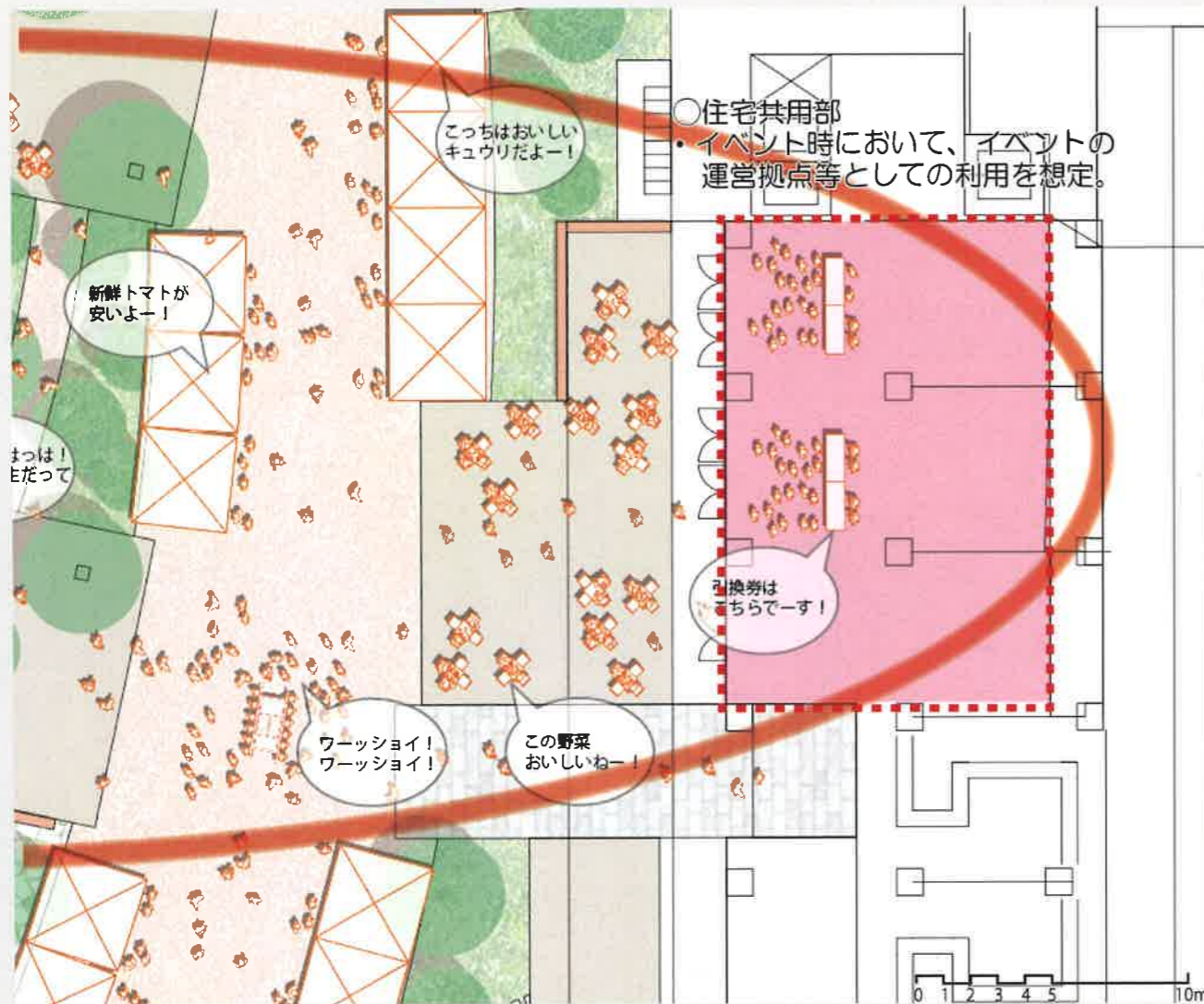
利用イメージ

0 1 2 3 4 5m

○賑わい創出の考え方

共用部の開放

- ・イベント時において、中央広場に面した住宅の共用部を開放することで、半屋外の空間として活用し、中央広場と一体的な利用を想定する。



屋外のイベントスペースと半屋外空間の一体的活用



サイン・掲示板等の設置

- ・日常時は、接地型住宅や共用室における地域住民の活動の情報発信をする掲示板や環境学習としての環境サインや解説ボードを通行空間に対して設置することで、地域コミュニティの醸成に寄与するとともに、にぎわい空間への誘引を図る。



接地型住宅の看板サイン

遊具的な黒板サイン

環境学習ボード①

環境学習ボード②



環境学習ツール



環境学習サイン



環境学習イベント



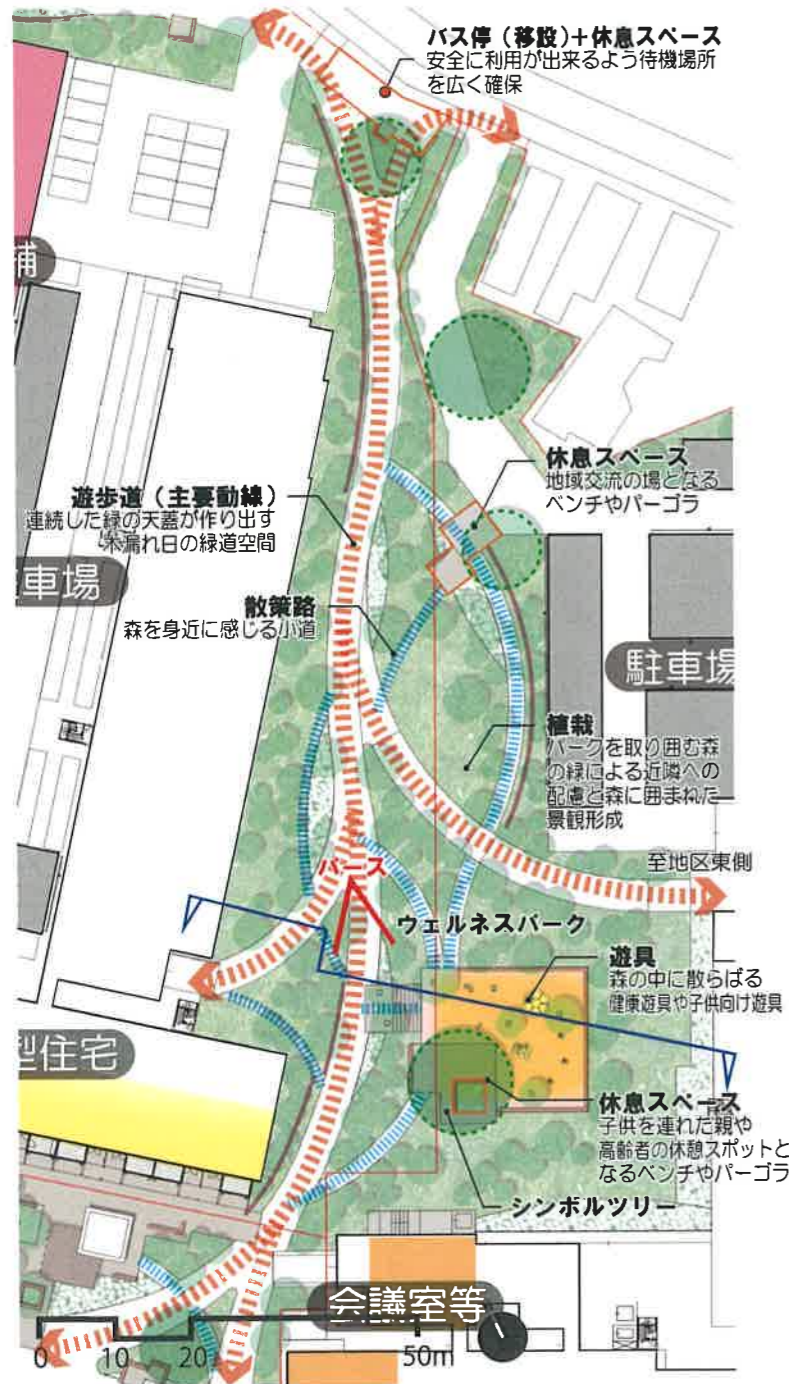
地域の情報発信の壁面サイン

4. 貫通通路・遊歩道エリア

(1) 遊歩道及びウェルネスパーク

丘の上の多世代交流広場

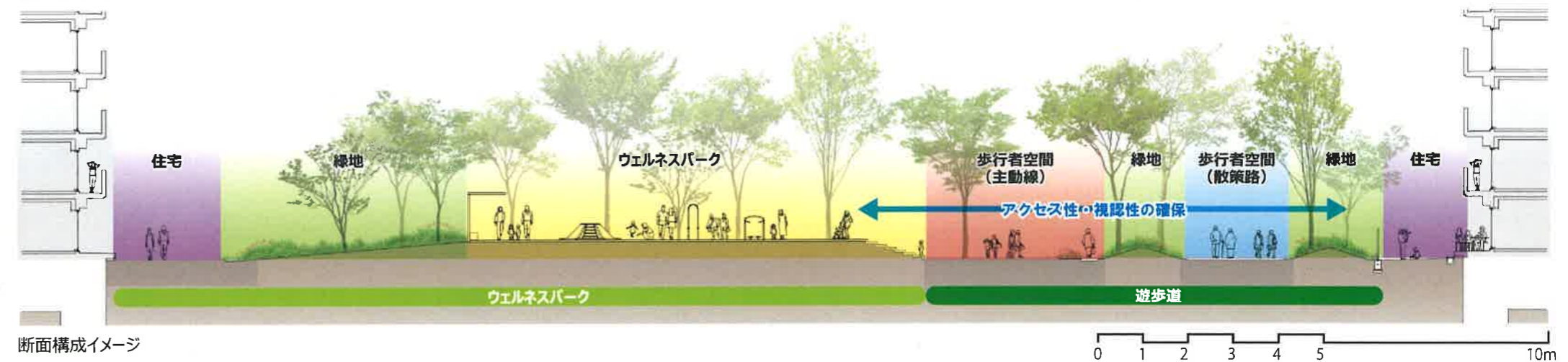
- 緑陰の散策路からせせらぎの流れる小道を登った丘の上の広場。スタジイの巨木の下に健康遊具や子ども向け遊具が配置され、地域の高齢者や住民、周辺の学校に通う子どもたちが集う健康促進と多世代交流の場となります。



平面構成イメージ



イメージパース



断面構成イメージ

●ウェルネスパーク

- 地域内の安全な場所に健康遊具や子供向け遊具、休憩スペースを設置することにより、地域の高齢者や住民、周辺の学校に通う子供たちが集う健康促進と多世代交流の場となる。
- 緑豊かな空間とすることによりやすらぎを与える場となるとともに、地区内における調和や居住環境への配慮を図ります。
- 地区内の散策路は、ウォーキング等の健康づくりの場となる。
- 地区の東側への連続性を確保します。



健康遊具イメージ



子供向け遊具イメージ



休憩スポットイメージ

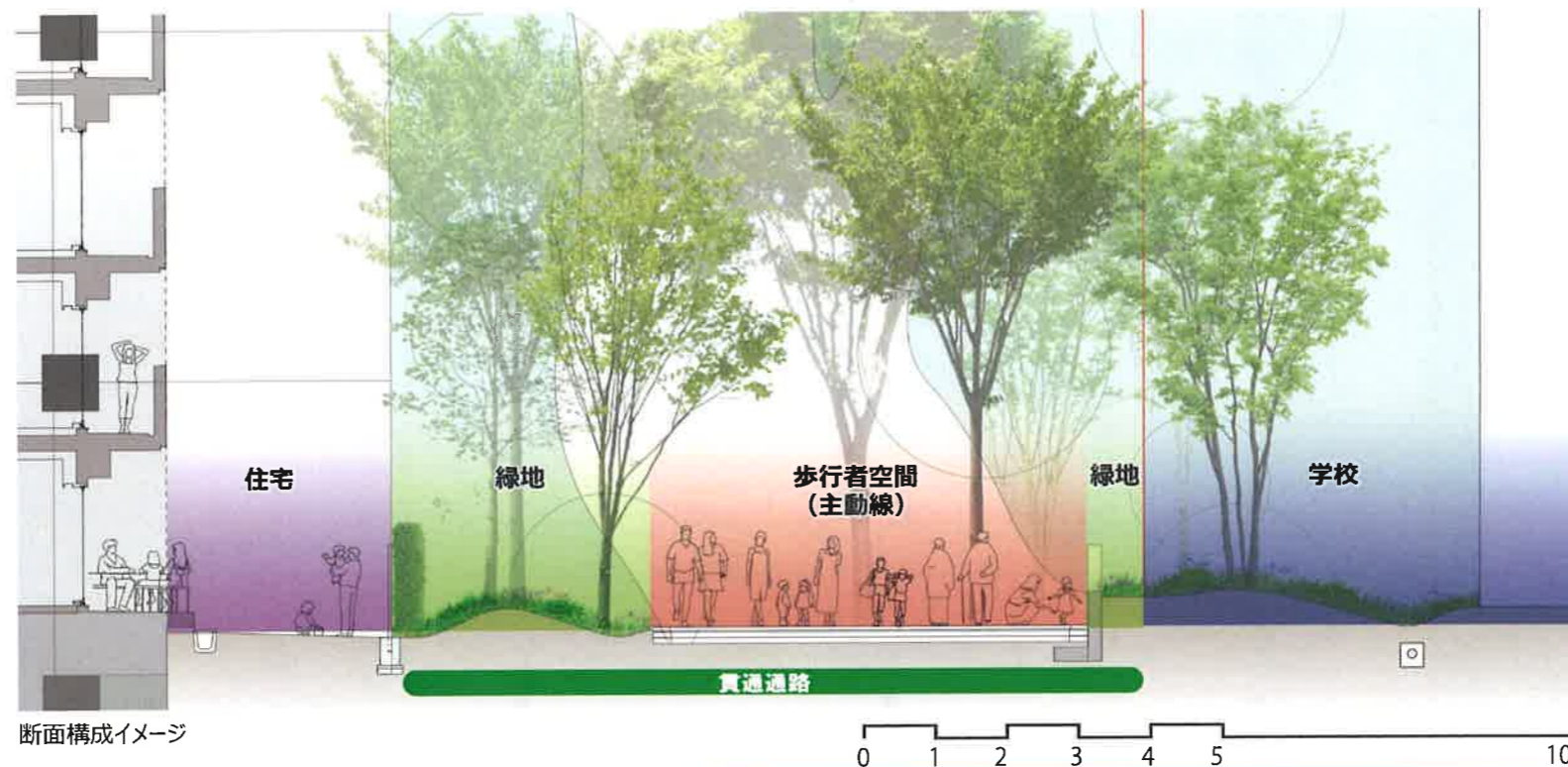
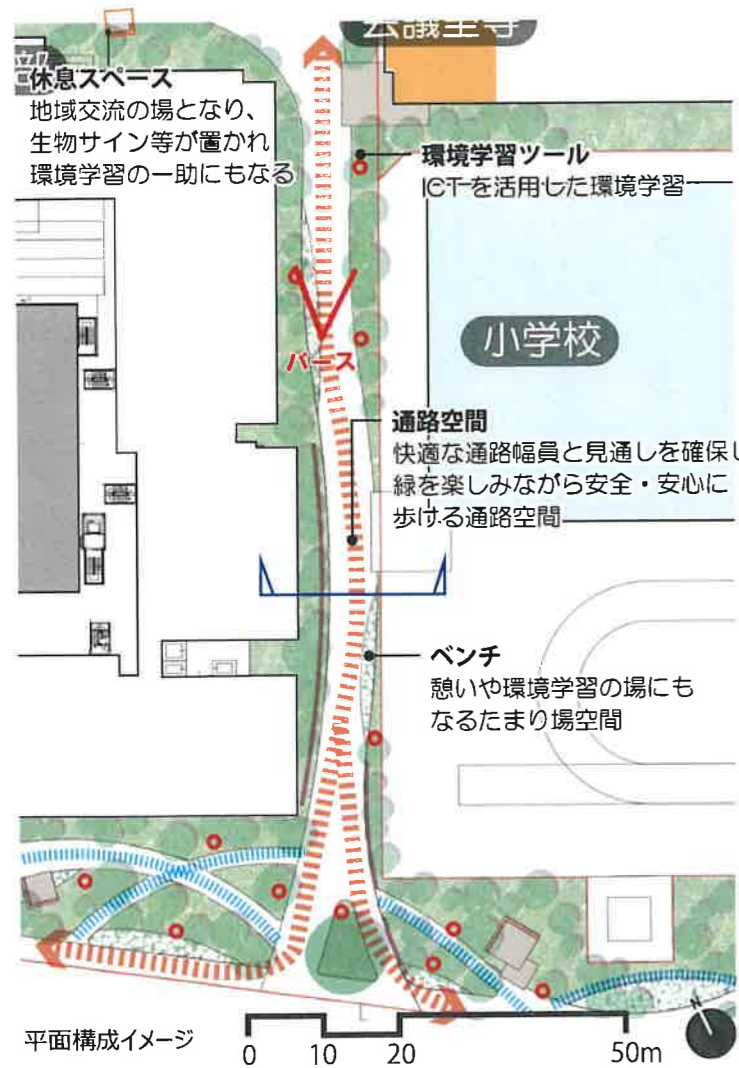
(2) 貫通通路及び小学校校門前

緑陰の中の貫通通路

- 貫通通路の緑は歩行空間を緩やかに蛇行させ、緑地と歩道が入り組ませることで、通路上に緑の天蓋を形成します。在来種を中心とした多様な樹種による緑の連なりは、歩行空間を快適なクールスポットにするとともに、生物のエコロジカルコリドーとなります。高木植栽は通路に張り出すような樹形で、下枝の抜けたものを中心とし、視線が通る安全安心な通路とします。また、足元の低木地被植栽は緩やかな起伏のある地形の上に、多様な樹種の混植をすることで、視認性の高い、変化に富んだ景観を形成します。



イメージパース



●緑道空間

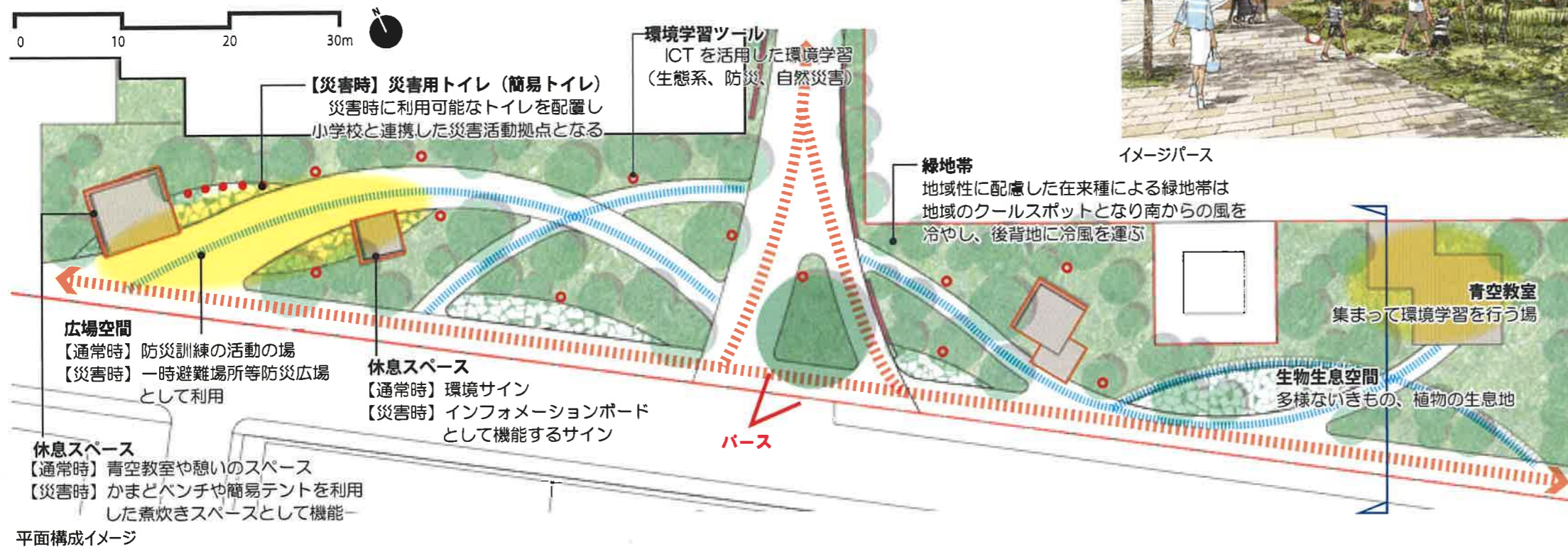
- 貫通通路の緑は歩行空間を緩やかに蛇行させ、緑地と歩道が入り組ませることで、通路上に緑の天蓋を形成します。
- 高木植栽は通路に張り出すような樹形で、下枝の抜けたものを中心とし、視線が通る安全安心な通路とします。
- 足元は緩やかな起伏のある地形の上に、多様な低木地被植栽を混植をすることで、視認性の高い、変化に富んだ景観を形成します。



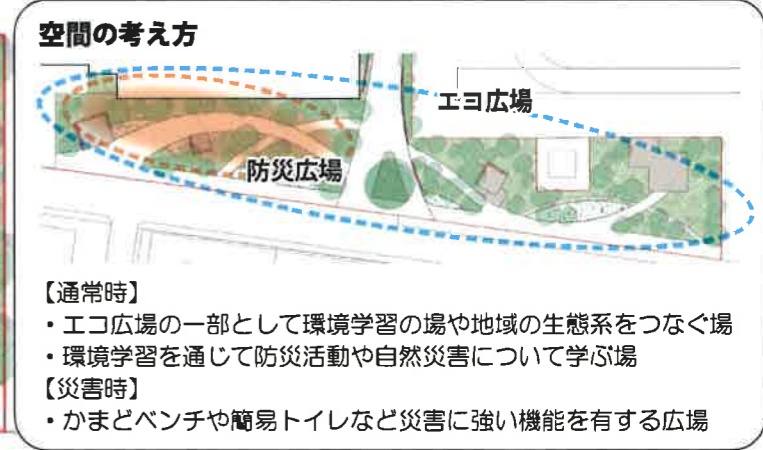
5. エコ広場・防災広場エリア

地域の生態系をつなぎ環境を学ぶ場

- 周辺に残る緑地に倣った多様な植栽と、生物生息空間を整備します。生物生息域に飛来する鳥や虫を観察することで子どもたちが自分の住む地域の自然を学ぶ場となります。小学校の授業との連携や、地域住民の環境学習となります。また、一体的に防災広場を設け、災害時には災害用トイレの設置や煮炊きのできるパーゴラやベンチを配置します。綱島街道から一步入った緑に囲まれた静かな休憩空間となります。



イメージパース



●エコ広場

- 周辺に残る緑地に倣った多様な植栽と、生物生息空間を整備します。生物生息域に飛来する鳥や虫を観察することで子どもたちが自分の住む地域の自然を学ぶ場となります。小学校の授業との連携や、地域住民の環境学習ができます。【使われ方のイメージ】
- 小学生が生物生息域に生息する生物や、飛来する鳥や虫を観察することで子どもたちが地域の生態系を学ぶ。
- 豊かな緑のかたまりとなり、クールスポットを創出する。鳥や虫の鳴き声を聞きながら快適に休息できる場となる。
- 多様な樹種構成とし、新緑や紅葉等の季節変化を楽しむ場となる。

●防災広場

- エコ広場と一体的な緑の中の広場には、災害時に災害用トイレの設置や煮炊きのできるパーゴラやベンチを配置します。綱島街道から一步入った緑に囲まれた静かな休憩空間となります。【災害時対応のための整備や活動について】
- 太陽光発電等の設備を導入し、災害時に活用できるエネルギー源の確保。
- かまどベンチや簡易トイレ等、地域の防災性向上に寄与する施設の整備。
- 防災訓練を兼ねた地域交流イベントの開催。



災害時に活用可能な自然エネルギー源



防災訓練を兼ねた地域交流イベントの開催



楽しみながら学べる防災イベント



周辺の森や川と連続した緑のネットワーク拠点



地域住民を対象にした環境学習

